

なからぎ

163号

2003年4月

グローバル時代の情報アクセス

附属図書館長 小野 秀生

御入学おめでとうございます。

京都は久しく山紫水明の地と言われ、四季折々に今も、国際歴史文化都市としてその姿を私たちに見せてくれます。そのような京都の環境に恵まれた本学で、皆さんが4年余の学生生活をスタートされたことに心からの祝福を送りたいと思います。

皆さんにこのメッセージを記していた3月18日、京都では、その2日前から第3回世界水フォーラムが開催され、21世紀世界の水問題解決のために、180ヶ国余の科学者・技術者、市民及び政治家など世界の良識が結集し、全世界に積極的な提言のための討論と行動を呼びかけようとしている最中であった。他方それと同時に、この日の朝10時には、折から緊迫の度を高めていたイラクの大量破壊兵器の問題を巡って、国連査察の継続による破棄か、武力行使による戦争開始かについて、ブッシュ米大統領が国連決議にも国際法にも拘束されない48時間後の武力行使を決断し、全世界に向けてその単独行動主義を発表した日でもあった。これらの顛末がその後どのように展開したか、何が問題かについては、すでに入学式後の皆さんは、つぶさに了解され、新しいグローバル時代の課題として関心を寄せるとともに、それらの解決のための方策を学びの対象として取り組まれている人も居られるであろう。これらはポスト冷戦後のグローバリゼーションにともなう21世紀世界が直面する課題を最もセンセーショナルに示したものであることは確かである。むしろグローバル時代の課題はこれらのみに限らずもっと多面的に様々な領域に及んでいることも日々経験しているとおりである。ちなみに、本学のグラウンドの南西部、北大路橋の袂にいまから7年前に開かれたCOP3(気候変動に関する国連枠組み締約国会議)京都会議を記念したモニュメントが置かれているのに気付かれたであろうか。この会議で、地球環境・温暖化防止の「京都議定書」が決定され、京都から全世界に発信されたのである。各国政府の批准をまって発効することになっていたが、CO₂の最大の排出国アメリカのボイコットによって未だに実効あるものとされないままである。7年経った今年、COP9が開催されるが、アメリカ抜きのままやっと発効しそうな状況であると言われている。将来の世代に関わる地球環境は、文字通り国を問わない人類共通の課題であり、理性の力によって解決されなければならないグローバル時代の喫緊のテーマである。

とまれ、グローバル時代の課題は多様でかつ多い。どのような課題であれ、挑戦するのは皆さんであり、私たちである。旺盛に情報を収集し、蓄積し、様々な課題解決に情報発信できる担い手として活躍されるよう願って止まない次第である。

図書館としては、皆さんの旺盛な情報アクセスを最大限支えていくことを願っており、皆さんの利用を待っていることを記しておこう。

(おの ひでお：福祉社会学部教授)

精華キャンパスの図書館事情と国立国会図書館関西館

図書館運営委員 田 中 國 介

北京市には中国で理工系トップクラスの精華大学がある。この小文は精華大学での留学手記ではない。わが京都府立大学の精華キャンパスの話である。精華キャンパスと勝手に呼ばせていただいているが、この名前は学生便覧、大学案内にも載っていない。しかし、京都府相楽郡精華町北稻と言うところに京都府農業資源研究センターと京都府立大学附属農場がある。精華町は関西文化学術研究都市、いわゆる京阪奈学園都市にある。上記の農場と農業資源研究センターに農学研究科の3研究室がある。生物機能学専攻の遺伝子工学研究室と細胞工学研究室、それに生物生産環境学の農業生態学研究室である。これら研究室の教員、農場職員、学生、院生を合わせると総勢50名を越えている。この数は数年後に急増すると予想される。学生がいて先生がいて研究室があり、教育、研究が行われている場所である。食堂や体育館はないが教育、研究と学生生活があるので、小さくとも大学の一部と言える。こんな訳でここではキャンパスという言葉を使わせていただく。

さて、精華キャンパスがオープンした平成9年の時点では、講座として農学部生物資源化学科遺伝子工学研究室があるだけであった。しかし、下鴨キャンパスから遠く離れた場所でも卒業論文の研究や日常の研究に図書館は必須不可欠である。各自が下鴨キャンパスを訪れ図書館に立ち寄り必要な文献を探している。文献を取りに来ることが出来ないときは、図書館をお願いしてコピーを下鴨からファックスしていただくなどしている。それでもゼミなどでよく使う学術雑誌は研究室で独自に準備する必要がある。あれやこれやと工夫しながら、どうかこれまで研究を継続しているのが実態である。下鴨の研究室にいたとき

と比べ図書館の利用環境は極端に悪くなった。

さて、この事情は昨年秋から大きく変わった。平成14年10月、わが精華キャンパスの近くに国立国会図書館関西館がオープンしたためである。この図書館の設置の目的は、東京にある国立国会図書館本館が手狭になったため、両館での役割を分担しつつ、進捗著しい高度情報社会に適合した図書館サービスを整備するためということである。そのため関西館の主な蔵書は、科学技術関係資料、外国雑誌、アジア言語資料、当館複本の国内刊行図書・雑誌・新聞等だそうである。また関西館は、各種事業を通じて東京本館と連携している。蔵書は現在320万冊であるが収蔵能力は600万冊と言うことで更に充実することだろう。建物は地上4階、地下4階で、延べ床面積約5万9千5百平方メートルで地下1階に閲覧室(350席)がある。

ここで精華キャンパスから実際に国会図書館へ行く道順と方法を紹介しよう。この図書館は京都から見ると精華地区キャンパスからすぐ近くに見える。たしかに地図上の直線距離は3 kmである。しかし、実際に出向くには車しかない。走ってみると結構な距離であり時間もかかる。それは、精華キャンパスと国会図書館のある精華台という場所の間に丘陵地帯が横たわっており、その中に陸上自衛隊関西地区祝園(ほおぞの)弾薬支処があるためである。キャンパスを出発し、狛田へ出て府道22号線(八幡木津線)に乗り近鉄新祝園駅の前を通過し、木津方向へ走る。学園都市の入り口を示す標識を右折して、まっすぐ精華大通りを西へ進み「私のしごと館」を左手に見ながら透明な虫かごのような建物に行き着けばいい。駐車場に入り農業資源研究センターからの距離、時間を測ってみた。距離メーターを見ると

8.5 kmあった。所要時間は丁度20分かかって
いた。直線距離からするともう少し短時間で
来れそうであるが迂回せざるを得ないことと、
府道22号線は道幅が極端に狭い上、日ごろか
ら渋滞していることで有名であり、仕方がな
いと思った。

本学の方への便宜も考えて少し国会図書館
の利用法も紹介しよう。利用者は18歳以上で、
住所が確定している必要がある。そのため利
用者登録が必要である。登録は出向いて始め
てもいいが、インターネットで「利用者登録申
請書」をダウンロードして郵送することでも
可能である。その場合、氏名、住所、年齢を証
明するものが必要だ。免許証、保険証、パス
ポート、学生証などで住所、年齢が証明でき
ればよい。われわれ大学に所属するものにとっ
ては誰でも利用可能である。

さて、肝心の蔵書の種類と数だが小生は、ま
だ本格的に利用する経験は持たないので実感
は書けない。しかし、研究室の院生諸君の話で
は必要な洋雑誌は、ほぼ間違いなく見つかる
とのことである。利用は図書館まで出向かな
くともインターネットを通じても行える。アド
レスは <http://www.ndl.go.jp/> である。検索
そのものは未登録者でも行えるので予めイン
ターネット上記アドレスにアクセスして確か
めてみることをお勧めする。検索法の詳細、
使用申請の仕方、道順等についても紹介され
ている。



正面入り口（筆者写す）

利用登録などはインターネットでも可能だ
が、ぜひ足を運んで施設も見ていただきたい
ものである。カウンターで貰うかインター
ネットダウンロードした登録申込書に必要
事項を記入し、証明書類と共にカウンターに
提出すれば数日後に登録した住所に登録利用
者カードを郵送して貰える。国会図書館の蔵
書から必要な論文などをコピーして送って貰
える。教職員の場合はコピー経費などを公費
依頼も出来るように既になっている。

研究、教育に図書館は欠かせないが、これま
で精華地区での教育、研究は実質的に図書館
抜きで行わなければならなかった。今や図書
館として最高レベルの施設が近くで利用出来
る状態になった。有り難いことだ。しかし、こ
のような施設をより有効に活用するには、更
に周囲の交通環境などが整備される必要があ
る。具体的には冒頭でも述べたが直線距離 3
km を行くのに実際には 3 倍近い距離と時間
を使っている。高速道路があるからそれを使
えば確かに時間と距離は短縮出来る。だが、そ
のために往復400円かかる。たかだか 3 km の
ところへ出向くのに400円は高いのでこのルー
トは誰も使わない。京阪奈学園都市にあり、近
くに有益な施設が有るにもかかわらずそれら
を有効に活用するには、まだまだ不十分な環
境下にある。もっとキャンパス側に近いルー
トを整備し、折角の施設がより有効に生かさ
れるような状況を実現したいものである。

（たなか くにしけ：農学研究科教授）

ひとくちメモ

図書館ホームページからは、
トップ画面「学外検索のペー
ジ」から図書検索画面「国立
国会図書館」へリンクしてい
ます。

『オリガ・モリソヴナの反語法』(集英社) 米原万里) を読んで

人間環境学部環境情報学科 リントウルオト正美

「その天才」とオリガ先生が言えば、それはウスノロの意味。主人公志摩の通うプラハのソビエト大使館付属学校には自称50歳、どう見ても70歳にしか見えないダンス教師がいた。プロポーションは抜群、ダンスを踊らせれば何故こんな小さな学校の教師なんてやっているんだろうというすごい腕前だった。そして、強烈な比喩、反語で罵倒、悪態を連発。周囲の非難もなんのそのの名物先生がなぜか、「アルジェリア」の一言には異常におびえる。オリガ先生は一体誰だったのか。志摩が大人になり、記憶をたどり歴史をさかのぼる旅の物語。

著者は実際に少女時代の1956年から1964年まで、プラハ・ソビエト学校に学んでおり、オリガは「小学生の時の先生がモデル」ということ。先生の強烈な反語や悪態は実は強制収容所(ラーゲリ)に発していた。それに気付いた著者は強制収容所の生還者の著書などを参考に強制収容所から死者の名で生還し、革命後の過酷な運命を生き延びていく先生の謎とき物語として、本書を記した。

本書はフィクションとして書かれている。しかし、読んでいるうちにノンフィクションだか、フィクションなのか、どこまでが真実でどこに嘘があるのかがわからなくなってしまう。収容所内でのエピソードの数々、スターリン時代のソ連、フルシチョフの時代のソ連、そして現在の荒廃したロシア。中国との関係、その他社会主義国との関係なども、著者が子供時代に体験しただけに非常にリアルである。

また、当時のソビエト学校の教養教育が非常に重厚で深みのあるものであったことが想像される。個々の教員たちの個性が際立ち、教員側からの一方通行でない教育法は是非ともこれから見直していくべきものであると感心し、うらやましい限りだと感じた。

なかなか多くを考えさせられる一方で、オリガ先生の悪態にわらいつつ、容赦のない非情な運命を強く生き抜いていく彼女たちの姿に涙したりと、一気に読ませる本である。

(リントウルオト まさみ：人間環境学部講師)



『オリガ・モリソヴナの反語法』集英社刊 2002
(請求記号 913.6/Y) に配架しています。

『柳宗悦全集 著作篇 全22巻25冊』

筑摩書房 1980.11-1992.5

上賀茂神社に詣で、社家町の明神川を渡り、ある社家やしきに入り、軒下に並べられた「手づくり仕事」の手芸品を手にとって、購入せんとするを妻に諫められたのは数年前。その地は、柳宗悦の「民藝」運動の実践として昭和2年3月、「上加茂民藝協団」が創設されたところ。

柳宗悦1889生 - 1961没。東大哲学科・心理学専攻。ブレイク、ホイットマン等英文学研究、朝鮮李朝雑器や木喰仏等々の民衆美の発見、日本民藝館の設立（昭和11年 東京都目黒区駒場）朝鮮・沖縄・アイヌ・中国などの文化・工芸論、もちろん民藝の発見者・運動の指導者など、広汎な分野の業績で知られ「日本の近代思想上にひときわそびえ立つ類まれな独創的な思想家」とも位置づけられている。

京都には大正13年から昭和10年にかけて居住し、「民藝」という新語を河井寛次郎・浜田庄司と生み出したのは、この間の大正14年だった。全集^{注1}図録篇『民藝大鑑』に「載せてあるものは言うに及ばず、民芸館に在るものの殆んどは京都時代に集めたものと言えよう」(1992.5「月報」25 柳宗理「宗悦の蒐集」)とも述べられている。また、大正14年6月27日には「木喰上人作木彫仏展覧会」^{注2}が京都府立図書館で開催されたが、柳宗悦と京都の識者とが交わる初めての場でもあった。

全集は日本民藝館設立五十周年記念出版で、著作篇の造本は、^{注3}菊版・上製・布クロス装・平均700頁で、芹澤銈介装幀による。第1巻 - 第22巻は予定どおりの毎月刊行で、1980.11-1982.9刊。しかし、21巻3冊（「書簡」） - 22巻2冊（「補遺・未発表論稿・年譜他」）は1989.7-1992.5刊で、13年余の年月を費やして完結。今日、21・22巻は古書の世界では「メキキ」と言われているようで、全揃いは、なかなか入手し難いものです。

京都で数少ない^{注4}インキュナビュラが扱えるキウオ書店のお世話になり、幸運にも、図書館の蔵書に加えることが出来ました。（請求記号750.8/Y/1-22）

ひとりでも多くの方が利用されることを、切に願って、図書館の受入資料の紹介とさせていただきます。

注1 ... 当館には残念ながら未所蔵

注2 ... 1980.11「月報」1 吉田孝次郎「上加茂民藝協団のこと(上)」には「京都市立図書館」とあるが、当時設置されておらず「廿七日から七月一日まで毎日午前八時から午後六時まで市内岡崎公園府立図書館樓上で開催」(大正14年6月29日付『日出新聞』)とあり誤植か？

注3 ... A5版よりやや大きく21.8×15.2cm

注4 ... 揺籃期の活版印刷物をさし、グーテンベルクらの活版印刷術発明(1450年ごろ)以降、1500年までにヨーロッパで刊行された「初期刊本」の総称

(附属図書館資料係)

図書館利用案内

開館時間

平日 午前9時～午後8時
休業中 午前9時～午後4時45分
(夏休み・冬休み・春休みの期間中)

休館日

土・日、祝日
年末年始(12月28日～1月4日)
11月5日(府立大学創立記念日)
8月第2～3週(蔵書点検・資料整理等)
3月20日～31日(蔵書点検・資料整理等)

図書館内の利用施設

【1階】 書庫、東書庫

【3階】 自習室(51席)、共同研究室、個室
視聴覚室(最大100席)、書庫

【2階】 開架閲覧室(約100席)

インターネットコーナー(端末6台)

AVブース(5席)、書庫

検索コーナー(端末4台)

* 詳細は右頁「配架図」参照

図書館サービス

【資料提供サービス】 閲覧・貸出・複写等。複写には公費と私費利用があります。

【情報提供サービス】 所蔵調査・書誌情報の調査をします。

【施設利用サービス】 視聴覚室・視聴覚機器類・共同研究室等の利用は事前申込みをしてください。

【相互利用サービス】 閲覧依頼や文献取寄せ等他館資料の利用ができます。

【学 生 希 望】 本学学生は希望する図書のリクエストができます。

【そ の 他】 2階閲覧カウンターでご相談ください。

図書館ホームページのご案内

図書館の概要、新着案内などをお知らせしています。

【アドレス:<http://www.kpu.ac.jp/toshokan/tosyokan/tosyokan.html>】又は、府立大学のホームページからも入れます。】

本学図書館所蔵図書検索(OPAC)のご案内

図書館ホームページから検索画面に入れますが、【アドレス<http://kpu-lib.kpu.ac.jp/cgi-bin/limedio/limewwwopac>】でも直接アクセスできます。

文献複写依頼(ILL)のご案内

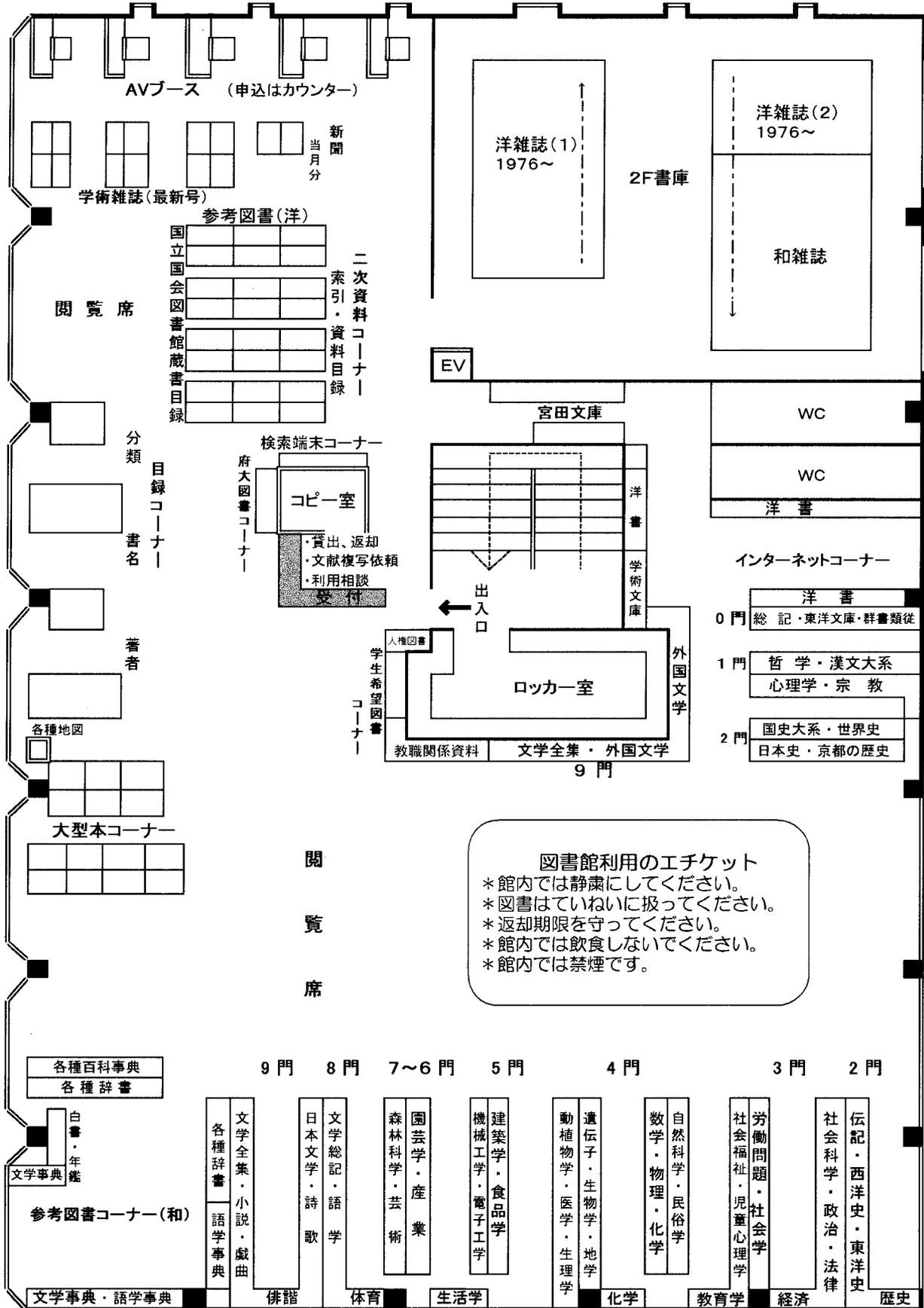
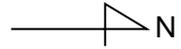
本学に所蔵していない資料についても、他大学に文献複写依頼をすることができます。

まず、Webcat等で本学が所蔵していないことを確認し、【アドレス:<http://kpu-lib.kpu.ac.jp/cgi-bin/limedio/limewwwillcopy>】にアクセスするか、図書館ホームページのトップから複写依頼画面に入ってください。その際、「利用者ID」と「パスワード」をあらかじめ取得しておいてください。なお、2階閲覧カウンターでも受け付けています。

本学所蔵文献複写(電子複写・マイクロ)料金	
学 内	1枚 10円
学 外(来館者)	1枚 10円(H15.4.1改訂)

ILL等申込みによる文献複写料金
他大学への依頼 依頼先の定めた金額
本 校への依頼 1枚20円(但し郵送料は別)

附属図書館(2階)閲覧室配架図



図書館利用のエチケット

- * 館内では静粛にしてください。
- * 図書はていねいに扱ってください。
- * 返却期限を守ってください。
- * 館内では飲食しないでください。
- * 館内では禁煙です。

お知らせ

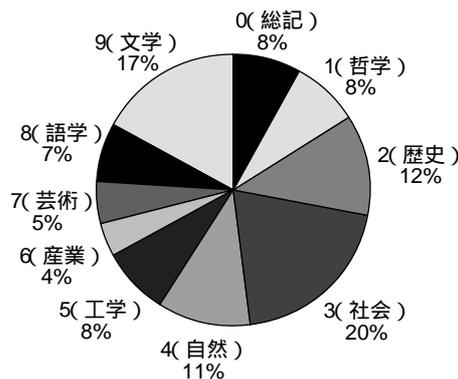
京都府立大学では平成15年3月現在、約35万1千冊の専門参考、教養図書を所蔵しています。うち、図書館で管理している資料は約12万冊。2階閲覧室には約4万冊、書庫内には約8万冊を配架し自由にご覧いただけます。この1年間、図書館で新たに受入れた資料は下表のとおりです。

なお、ほかに約200タイトルの各種学術雑誌もあります。また、各学部、講座の所蔵本は約22万5千冊あり、それぞれ、研究室所定の方法で活用していただくことができます。

図書館受入図書冊数及び分類別比較

(H.14.4月～H15.3月分) - 中間速報 -

分類	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
	総記	哲学	歴史	社会	自然	工学	産業	芸術	語学	文学	
開架	123	139	167	338	176	127	46	61	75	301	1553
大型	1	0	5	9	9	14	11	18	1	9	77
参考	19	9	48	42	19	8	12	8	40	16	221
書庫	6	7	17	19	6	5	5	7	13	12	97
事務室	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	3
合計	151	155	237	408	210	154	74	94	130	338	1951



行事予定

4 月

- 1日(火)～11日(金) 春期休業 (開館時間：午前9時～午後4時45分)
- 1日(火)～ 通常貸出実施 (貸出冊数 3冊以内) (返却期限 2週間以内)
- 14日(月)～ 通常開館開始 (開館時間：午前9時～午後8時)
- 14日(月) 春休み長期貸出図書返却期限
- 29日(火) 休館 (みどりの日)

5 月

- 1日(木)～ 通常開館 (開館時間：午前9時～午後8時)
- 1日(火)～ (貸出冊数 3冊以内) (返却期限 2週間以内)
- 5日(月) 休館 (こどもの日)

6 月

- 2日(月)～ 通常開館 (開館時間：午前9時～午後8時)
- 2日(月)～ 通常貸出実施 (貸出冊数 3冊以内) (返却期限 2週間以内)

図書館登録のご案内

新入生の皆さん

ご入学おめでとうございます。

図書館を利用させていただくにあたっては、まず「図書館登録」をお済ませください。新規登録手続き等の説明は、図書館2階閲覧室カウンターで行っています。

在校生の皆さん

まだ「図書館登録」していない場合は、学生証を持って2階閲覧室カウンターへお越しください。本校を卒業されるまで有効の「図書館利用カード」をお渡しします。

ご注意

図書貸出、文献複写、一時持出や他校への閲覧依頼等、「図書館サービス」を受けていただくためには「図書館利用カード」の提示が必要です。

貸出図書は予約が入っていない限り、期間延長できますので、期限切れまでに返却したうえで、あらためて貸出手続きをしてください。